

第 2488 圖



もろこしかや

Holcus fulvus R. Br.

(=Sorghum fulvum Beauv.; Andropogon serratus Thunb.; A. tropicus Spreng.)

四國・九州・紀州・中國西部ノ暖地山野ノ向陽草地ニ生ズル多年生草本ナリ。稈ハ高サ1m内外ニ達シ、節ニ鬚毛アリ。葉ハ狭長ニシテ漸尖シ、短小截頭ノ小舌ヲ有シ、葉鞘ハ圓筒形ニシテ口縁ニ絹毛ヲ布ク。夏秋ノ候ニ開花ス。疎ナル圓錐花穂ハ全形長橢圓形、枝梗ハ纖長ニシテ層々輪生シ、梗端ニ各短穂ヲ着ケ長サ10-12mm許アリ。小穂ハ赤褐色又ハ紫色ノ短毛ヲ密布シ長サ3-4mm許アリ。毎小穂ニ中途ニ於テ膝曲セル長芒ヲ具フ。和名ハ花穂ノ狀稍もろこしニ似タレバスク云フ。

もろこし (蜀黍)

一名 もろこしきび・たかきび

Holcus Sorghum L. var. japonicus

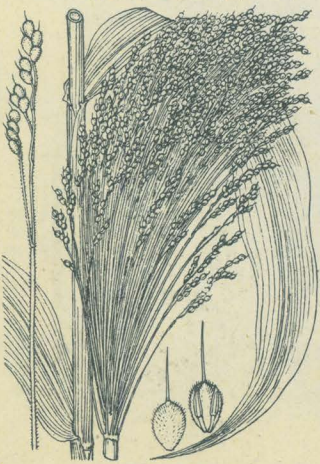
Makino. (=Andropogon Sorghum Brot. subsp. sativus Hack. var. vulgaris Hack. subvar. japonicus Hack.)

舊ク天正年間ニ我邦ニ入り今ハ一般邦内諸州ノ圃地ニ栽培スル一年生穀禾ニシテ根ハ太キ鬚狀ヲ成ス。稈ハ單一直立シ粗大ニシテ高サ2m内外アリ平滑ナル圓柱形ニシテ中實ニ節アリ。葉ハ互生シテ長楕圓形長大ニシテ長サ50-60cm許アリ、幅ハ廣クシテ6cm内外アリ、上部漸尖シ先端垂下シ莖ト共ニ緑色ナレドモ後チ往々赤褐色ヲ帯ブ。夏月ニ至リ稈頂ニ多數ノ花ヲ密聚セル大形ノ圓錐花序ヲ成シ後赤褐色ノ穎果ヲ結び、其梗時ニ鈎曲スルアリ之レヲかきもろこし (forma cernuus Mak.) ト云フ然レドモ是レ特立ノ品ニ非ラズ能ク普通品ニ交ハリテ生ジ其鈎度ニ様ナラズ。小穂ハ密在シ、花序ノ小軸各節ニ兩性ニシテ無柄ノ者一箇、雄性ニシテ有柄ノ者二箇ヲ有ス。兩性小穂ハ廣倒卵狀橢圓形ニシテ5mm許、下部ニ短キ總苞毛ヲ有シ、内外ノ二穎ハ厚革質ヲ呈シ外穎ハ上方有毛ニシテ内穎ヲ包ミ、内外ノ二稈ハ膜質有毛ニシテ内稈ハ長サ6mm許ナル屈折芒ヲ有ス。滿洲國ニテ昔ク栽培スル高粱ハ本種ト同ジク、元來高粱ハ蜀黍ノ一異名ニシテ支那北地ノ稱ナリ。本種ハあふりか洲ノ原産ト稱スレドモ其正確ナル原産地ハ未詳ナリ。和名もろこしハ唐きびノ略、高きびハ其稈高キヲ以テ云フ。

第 2489 圖



第 2490 圖



ははきもろこし

(發音 ほーきもろこし)

Holcus Sorghum L.

var. transiens Honda.

(=Andropogon Sorghum Brot. subsp. sativus Hack. var. transiens Hack.)

舊時ヨリ圃中ニ栽培スル一年生禾本ニシテ全姿もろこしニ類スト雖モ稈ハ瘦長ニシテ高く、其高サ3mニ達シ綠色ノ圓柱形ヲ呈シ、節アリ。夏月、大ナル花穂ヲ稈頂ニ着ケテ枝梗纖垂シ多數ニ分岐シテ瘦長ナル硬質小梗ヲ成シ、綠褐色ヲ無數ニ着ク。兩性小穂ハ長橢圓形ニシテ先端尖リ、内外ノ二穎ハ白軟毛ヲ有シ、内外ノ稈ハ膜質、内稈ハ小形ニシテ長サ8mm許ノ屈折セル芒ヲ有シ、狭長橢圓形有柄ノ雄性小穂一二箇ヲ伴フ。果穂ハ穎果ヲ除キ以テ箒ヲ作ル、故ニ箒蜀黍ノ和名アリ。

かりまたかや

Dimeria ornithopoda Trin.

山原并ニ平野ノ向陽草地ニ生ズル一年生草本ニシテ下ニ鬚狀根ヲ叢出ス。稈并ニ葉ハ叢生シ、葉ハ狭線形ニシテ尖リ、葉縁ニ長キ毛ヲ生ズ。秋月、多數ノ瘦細ナル稈ヲ抽出スルコト10-30cm許、葉ヨリ高キ稈頂ニ二乃至三岐シテ又狀ヲ呈セル花穂ヲ着ク。花穂ハ細長ニシテ長サ3-7cm許アリ。小穂ハ淡綠色又ハ微シク紫色ヲ帯ビテ軸上ノ各節ニ一箇宛ヲ着ケ其長サ3mm許ニシテ長橢圓狀披針形ヲ成ス。外穎ハ厚膜質、内穎ハ膜質、外稈ハ薄膜質小形ニシテ先端ニ小穂ノ三乃至五倍ニ達スル纖細ナル長芒ヲ有ス。和名雁股がやハ其兩岐セル花穂ニ基キテ云ヒ、かりまたノ語ハ元來蛙股(かへるまた)ノ略轉セルモノナリト謂フ。

第 2491 圖



こぶなぐさ

一名 かいなぐさ・かりやす(同名アリ)

古名 かいな・あしひ

Arthraxon hispidus Makino.

(=Phalaris hispida Thunb.)

var. ciliaris Honda.

(=Ischaemum ciliare Retz.; A. ciliare Beauv.)

我邦到ル處ノ向陽原野等ニ多キ一年生草本。稈ハ其下部通常地上ニ傾倒シ節ハ鬚根ヲ發シ、上方ハ斜上或ハ直立シテ30-40cm許ニ達シ、瘦長ナル數枝ニ岐レ、秋月、每枝頂端并ニ上方葉腋ニ花穂ヲ着ケ、花穂ハ五乃至十枝許ニ分岐シテ茶壺狀ヲ呈シ長サ3cm内外アリテ紫色ヲ帯ブ。葉ハ互生シ披針狀卵形ニシテ心臟底ヲ呈シ兩面無毛、葉縁ノ下部ニ睫毛ヲ有シ、葉鞘ニハ粗毛ヲ開出ス。小穂ハ各分枝ノ節毎ニ一箇アリ、披針形ニシテ長サ4mm許、外穎ハ舟狀ニテ粗糙シ、内穎ハ膜質、内外ノ二稈ハ薄膜質ニシテ遙ニ小ク、内稈ハ先端ニ二岐シ芒ハ外穎ノ二倍長許アリ。八丈島ニ在リテハ八丈絹ノ黃色染料トシテ之レヲ實用ス。和名小節草ハ其葉形ニ基キテ云ヒ、かいなハ染ムルヲかく(穢)ト云フヲ以テかいなハ穢草(かきなしぐさ)ノ意ナルベシト謂ヘリ是レ果シテ然ル乎。按ズルニうで即チ腕ヲかいなト云フヲ以テかいなハ或ハ其膝曲セル稈ニ基キテ謂ヒシ名ニハ非ザル乎。又あしひハ脚蘭ニテ是レ亦膝曲スル脚ニ基キシ名ニ非ザル乎。漢名蠶草(誤用)

第 2492 圖



第 2493 圖



しば

Zoysia japonica Steud.

(=Z. pungens Willd. var. japonica Hack.;

Osterdamia japonica Hitchc.)

山野路傍等ノ向陽地ニ普通ナル多年生草本。稈ハ強剛細長ニシテ平滑ナル針金狀ヲ呈シ、長ク地面ニ匍匐シテ之レヲ覆ヒ、各節ヨリ細鬚根ヲ發出ス。葉ハ互生シ緊縮セル三節ニ三葉揜在シ線形ニシテ先端漸尖シ、幅3mm許アリテ質稍硬強、下部ハ葉鞘ヲ成シ其口縁ニ鬚毛ヲ具フ。五六月ノ候、瘦細ナル稈ヲ葉中ヨリ抽キテ直立シ高サ15-20cm許アリ、稈頂ニ長サ3-5cm許ノ短穂ヲ直立ス。花軸ハ關節ナク、各小分枝ノ先端ニ一花ヲ生ズ。穎ハ一片ニシテ長サ3-4mmアリ狭卵形ニシテ稍紫色ヲ帯ビ光澤アリ、中ニ一箇膜質ノ稈ヲ有シ、芒無シ。之レニ似タル一種カウライしば一名テウセンしば(Z. matrella Merr. var. tenuifolia Dur. et Schinz.=Z. tenuifolia Willd.)ハ其葉、纖細、質柔ニシテ地ヲ覆フテ生ジ、芝艸トシテ往々庭前向陽地ニ栽エラレ暖地ニ在テ能ク繁茂ス。和名しばハ細葉ノ義ト謂フ、又紫葉(しばば)ノ意トモ謂ハル。漢名結縷草(慣用)、結縷ハ『爾雅』ノ傳一名橫目ニシテ俗ニ之レヲ鼓筆草ト云フト謂ヘリ是レ果シテしばカ確實ナラズ。